



▲井手さんが企画した
風祭の様子



◀地域の人に気さくに
話しかける木下さん



おいしいと好評だった
野菜バーガー

地域と力を合わせて盛り上げる!

特集

多久市の 地域おこし 協力隊



今春、多久市の地域おこし協力隊に着任された木下光次さん^{きのしたみつじ}と井手研一さん^{いでけんいち}。

これまで約半年間の活動や今後の多久市を盛り上げるためのアイデアなどを語っていただきました。

地域みなさんとともに多久市の活性化に取り組む2人の熱い想いをご紹介します。

OBメッセージ

活動を経て、次の舞台へ

高校時代に発生した東日本大震災を機に、社会課題とその解決への取り組みに関心を持ち、大学卒業後すぐに多久市地域おこし協力隊として西多久町を中心に活動を始めました。

当時は女山大根のPR・ブランド化・商品化、直売所の活性化事業をととして農業を応援。そのほか、地域の子もたちと一緒に西多久町の歴史や言い伝わる物語を探して『ぼくらの西多久見聞録』という1冊の本にまとめています。

現在は商店街活性化事業や、ドローンで作る“空の道”での物流の実現など、多久市を盛り上げるため活動中。地域おこし協力隊時代に築いたつながりがあったからこそ、こうして今も市民のみなさんのご理解を得ながらさまざまな取り組みを行うことができています。



多久市まちづくり
コミュニティプランナー おおや けんた 大屋 謙太さん

平成29年4月から令和2年3月まで、地域おこし協力隊として活動。市内に居住し、1人でも多くの人に興味を持ってもらえるよう、多久市を被写体としたYouTube「トビラビト」を配信中。福岡県福岡市出身。

YouTube「トビラビト」は
こちら▶



地域おこし協力隊 とは？

地方公共団体が都市部からの移住者を「地域おこし協力隊」に任命し、隊員が農業や漁業、イベントの企画・運営、地場製品の開発・販売、住民の生活支援といったさまざまな活動をととして地域の活性化を図っていく制度です。

任期は1～3年。移住者の定住や定着へつなげる取り組みとしても注目されており、任期終了後も約6割の隊員が住み続け、地域の新しい力となっています。

